◇まえがき◇

機器分析センターこの一年

機器分析センター長　白　木　敬　一

山口大学機器分析センターは1992年４月に国立学校設置法に基づく学内共同教育研究施設として設立されました。1996年３月にはセンター棟（３階建，1154m²）が竣工し，同年９月25日にはセンター棟竣工記念式典及び祝賀会を挙行し，本格的な活動を開始しました。私は，５年間にわたり建物の新営・センターの運営に尽力された飯石前センター長が理学部長就任のため辞任された後をうけ，1997年４月よりセンター長に就任しました。私の役目は飯石前センター長のひかれた路線を踏襲することにありますが，幸い皆様方のご協力を得て，機器分析センターは益々充実したものになってきたと思っております。

新築なったセンター棟に設置されている機器の多くは，連日フル稼働に近い状態で働いております。そのため，森福技官をはじめ各機器の担当者の方々にはご足労をかけ，また光熱水料費も莫大に上っておりますが，深夜まで「使用中」「Ｘ線発生中」の灯りを見るのは喜ばしいかぎりです。

最新導入機器として本年度は新型のICP発光分光分析装置（佐々木義明教授，田頭昭二助教授，村上良子助手ほか）が入りました。いずれ紹介があると思います。昨年度に導入された自動Ｘ線回折装置については飯石一明教授に解説をして戴きました。

本年度は懸案であった「国立大学機器・分析センター会議」の第１回会議が1997年９月30日に東京ガーデンパレスにおいて開催されました。この会議は 1996年２月に埼玉大学，千葉大学および筑波大学の３大学間で意見交換の結果，全国の機器・分析センター会議を発足させようという案が出され，４月にアンケート調査を行い，23施設からの回答をもとに，協議会の設立という形で始まりました。1997年３月29日に設立予備会議が28大学の出席のもとに開かれ，会則等を検討し，６月にアンケート調査を行い，名称，趣意書，会則等の原案をまとめ，開催されたものです。

「国立大学機器・分析センター会議」の第１回会議には，全国36施設のうち，29施設から36名の出席を得，また，文部省から学術国際局研究機関課木下課長補佐および同課角田研究所第二係長が出席されました。

会議は第１部と第２部にわかれ，第１部は，設立に深く係られた埼玉大学恒次センター長を議長に選出した後，出席者全員から所属大学の機器分析センターの近況を含め自己紹介があって始まり，千葉大学上松センター長から第１回会議が開催されるまでの経過が報告されました。

続いて議事に入り，会の名称として，アンケート調査の結果，「国立大学機器・分析センター会議」とする案が多数となったため，そのようにしたいとの提案があり，承認されました。また，趣意書・会則についても，２，３の修正意見が出されましたが，ほぼ原案のとおり承認されました。

第２部は文部省担当官の挨拶および質疑応答で始まりました。木下課長補佐は，財政事情は非常に厳しいが，科学振興費については，他分野が対前年度比一律10％減という中で，唯一５％を上回らない範囲で増額が認められる方向にあるので，科学研究費補助金および政府出資金等を積極的に活用してほしい，などと述べられ，質疑応答が行われましたが，いずれも国の財政事情はますます厳しくなるので，大学側の要望になかなか答えられないというものでした。

続いて機器分析センターの今後のあり方などの討議が行われました。機器の更新についてリース制採用の希望が多かったので，意見交換が行われ，現時点ではまだいろいろ問題があるが，文部省としても検討したいということでした。センターの充実について，最も歴史の古い筑波大学では教官増をはかり，研究センターとしての進展について検討中であることなどが述べられました。

機器分析センターは各大学で事情が大きく異なりますが，山口大学機器分析センターは同規模の大学の中では充実したものだとの感を強く持ちました。私の任期はこの３月で終わりますが，次期センター長のもとで機器分析センターがよりいっそうの発展に向かうことを確信しております。